

イ 美味しい「コシヒカリ」の移植栽培基準例

540kg穫り収量構成の目安

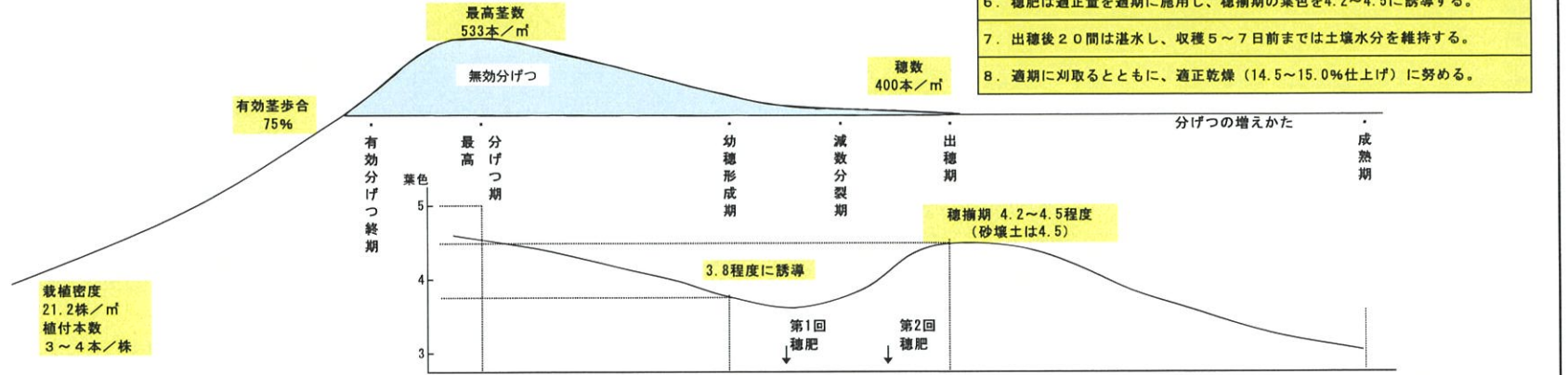
収量構成	目安
㎡当たり最高莖数 (本)	533
有効莖歩合 (%)	75
㎡当たり穂数 (本)	400
平均一穂粒数 (粒)	70
㎡当たり着粒数 (百粒)	280
登熟歩合 (%)	87
玄米千粒重 (g)	22.5

土壌区別施肥設計 (kg/10a)

土壌区分	窒素施用量 基肥 (側条施肥)	種肥		三要素合計			
		出穂15日前	出穂8日前	窒素	リン酸	カリ	
		沖積	C L	1.8~2.6	1.5	1.5	4.8~5.6
	L	2.4~3.6	1.5	1.8	5.7~6.9		
	S L	3.0~4.0	1.5	2.0	6.5~7.5		
洪積	L~C L	2.4~4.5	1.5	1.8	5.7~7.8		

栽培のポイント

- 育苗日数20日間、ハウスの温度管理に注意して、健苗を育成する。
- 5月15日を中心として、好天日に田植えを行う。
- 株数は、坪当たり70株を植え、良質の茎を早く確保する。
- 適正な中干しにより根の活力を高めるとともに、過剰分けつを防ぐ。
- 幼穂形成期の葉色を3.8に誘導し、以降は飽水管理で葉色低下を防ぐ。
- 穂肥は適正量を適期に施用し、穂揃期の葉色を4.2~4.5に誘導する。
- 出穂後20間は湛水し、収穫5~7日前までは土壌水分を維持する。
- 適期に刈取るとともに、適正乾燥(14.5~15.0%仕上げ)に努める。



月日	4月	5月	6月	7月	8月	9月
4/25	5/15	6/15	7/13	8/5	9/13	
生育区分	育苗期	田植期 活着期	有効分けつ期	無効分けつ期	幼穂形成期 ~穂ばらみ期	登熟期
水管理		やや深水 浅水管理	中干し	間断かん水	飽水管理 (足跡の水が切れないように管理する)	出穂から20日間は湛水管理 (落水を急がないように)
栽培管理のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 葉いもち予防のため育苗箱施薬を行う。 育苗ハウスが二十五度以下になるよう管理する。 播種量は一箱当たり一〇〇g以下とする。 二十日間を目安とする。 播種日は四月二十五日を中心とし、育苗日数は十分に浸種して芽出しを確実にを行う。 田面の均平を図る。 ゆつくりと耕起し、作土十五cm以上を確保する。 					